

労働者協同組合法
制定記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

会場：トークネットホール仙台 小ホール 仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

日時：5/22(木) ①14:00～ ②18:30～



医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎シャワール会/PM S

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会センター事業団

一般社団法人日本社会連帯機構

制作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分





医師中村哲の
仕事・働く
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

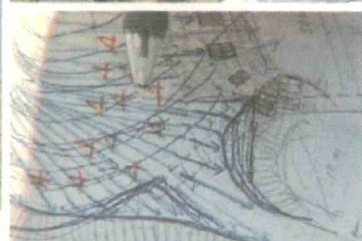
1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一読めぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと」である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。

中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ
中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている」上野千鶴子氏（社会学者/東京大学名誉教授）

5/22(木) ①14:00～ ②18:30～ *各回 30 分前より受付/開場
トークネットホール仙台 小ホール *事前予約または当日先着入場

参加料金:一般 1,000 円 学生 500 円 障がい者手帳をお持ちの方・高校生以下は無料

各回上映後にアフタートークを予定しています 登壇者:①山内明美氏 ②主催団体関係者
宮城教育大学 教育学部 准教授 山内 明美氏 「痛みの〈東北〉論」「こども東北学」著者
講演タイトル 「人間を生かす仕事って何だろう」 14:00～映画上映後に登壇予定



【事前申込制】左記の QR コードから事前のお申込をお願いします

*チケットは発行しておりませんので、お申込の上当日料金をお支払いください

*座席の指定は特にございませんので、当日受付順にご案内させていただきます

*QR コードからお申込できない方は、当日先着順に受付させていただきます

当日定員数（各回 500 名）を超過した際は入場を制限する場合もございます



国際協同組合年

主催：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 南東北事業本部 【お問い合わせ】 022-398-4975

共催：一般社団法人 日本社会連帯機構（本作品企画製作団体）【問合せ可能時間】 平日 13:00-17:00

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県協同組合こんわ会 認定：2025 国際協同組合年事業